

2022年3月14日（月）

老球の細道660号

天才と努力

会津バスケットボール協会 室井 富仁

北京冬季五輪の新聞記事で『17歳川村 天才ではなく練習の鬼』というのを読んだ。女子モーグルに初出場して残念ながら5位に終わったが、まだ17才であり、「世界一」を目指しているのがこれからが非常に楽しみな選手だという。

川村選手が五輪を目指して大きな決断をしたのは6歳の春だった。1, 2学期は東京の小学校に通い、3学期はスキーに本気で打ち込むため、新潟県の湯沢町の学校に転校した。雪解けの頃、再び東京に転校する生活を6年間続けた。自分の夢を達成するための覚悟と信念が小学生ですでにできていた。親から勧められてのことではなく自ら選んでのことだった。

さらに凄いのは練習の虫ではなく、練習の鬼だったことである。「練習はまるで苦しめない。止めない限り、ずっと滑っていた。運動神経が飛びぬけているわけではない。才能があったとすれば、スキーが好き過ぎるといふことかもしれない」と川村選手の小学校時代のコーチは話す。さらに「彼女にオフはなかった。シーズンが180日あるとしたら、本当に180日間滑っている。練習の鬼です」。なんで休まないの？とコーチが問うと「だって疲れていませんから」と答えたという。

『イチローに学ぶ「天才」と言われる人間の共通点』〈児玉光雄：河出書房新社〉という本にはイチロー選手の例を挙げながら努力の天才たる共通性をいくつか挙げている。

***強い信念を持つ**：自信の量は状況によって増えたり減ったり不安定であるが、「夢を実現するんだ」という強烈な信念、思い込みの量はどんな状況においても不変である。

***負けず嫌い**：負けることを恐れる人間ではなく、負けることを許せない人間である。負けはその日限りのもの。負けたらその悔しさをバネにして、明日勝利を奪い取ればよい。

***粘り強い努力**：「天才は1%の才能と99%の汗によって生まれる」と言ったのはエジソンである。天才は練習が3度の飯より大好きである。一日中体育館でシュート練習をしても飽きない。練習しないと苦痛なのである。行動しない人は止まっていることが快適であり、行動し続ける人は、それを維持することが快適なのである。

***好奇心**：努力を苦しめない源は旺盛なる好奇心である。一つのことに固執して、それを究めるまで持続させる力をいう。私たちはバスケットボールへの好奇心を刺激しているだろうか。努力の天才を育てる時にコーチはいつもそのことを自問自答しなければならない。

***ONとOFFのバランス**：天才とて所詮人間である。努力の継続にはオフタイムの息抜きも重要である。週に一度お気に入りのレストランで気の合った仲間と食事を楽しむ。週に三度は一時間を確保して自分の趣味に没頭する。週に五度は30分間の時間を確保して、ウォーキングかジョギングをする。

会津の英雄野口英世は、生きていた時代に書かれた伝記の本に天才と書かれたことに対して「おれは努力しただけだ」と答えている。孫の『学習まんが人物館』に書いてあった。